

甘楽町広報

昭和36年6月15日発行 (毎月15日)

第22号

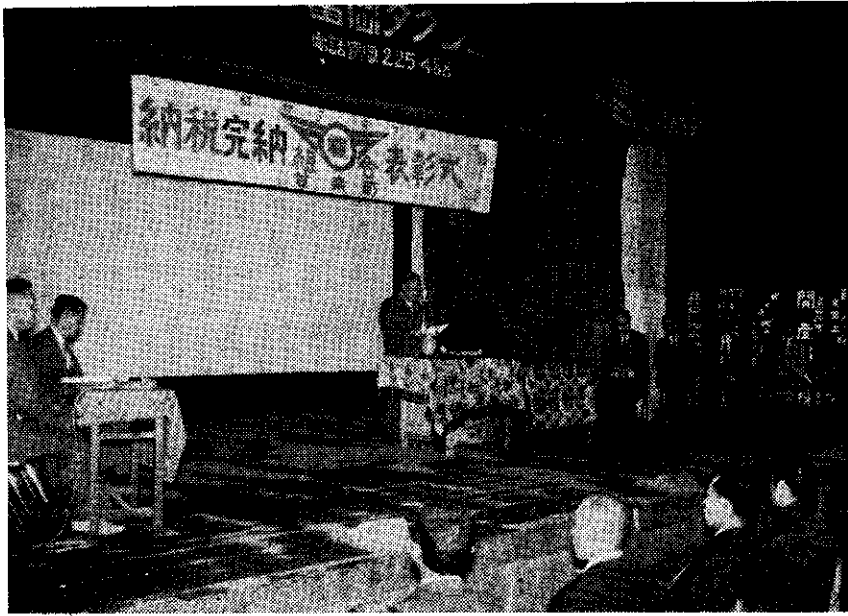
今月の納税

- 1、固定資産税 第1期
- 2、町民税 第1期
- 3、保険税 第2期
- 4、春蚕共済掛金 全額

5月の動態

| | | |
|----|-------|-----|
| 人口 | 1,481 | 1人 |
| 男 | 712 | 1人 |
| 女 | 769 | 0人 |
| 世帯 | 269 | 1世帯 |
| 転入 | 26 | 人 |
| 転出 | 45 | 人 |
| 出生 | 26 | 人 |
| 死亡 | 12 | 人 |

群馬県甘楽郡甘楽町
 大字小幡甲852
 甘楽町役場電話(小幡)44
 発行所
 編集 総務課 広報係
 印刷所 誠確堂印刷所



町税完納組合を表彰 収入率は34年より2%強よい

町ではさる5月15日、中央公民館へ納税組合長を招き、町税完納組合一七八、納税功労者二人の表彰式を行いました。

昭和35年度の町税の納入成績は、4月30日現在九四・八四%という高率をあげ、34年度同期に比べて二・一四%も上昇するという喜ぶべき結果となりました。これは、昨年の納税が良かったことなど経済の好況もありましたが、いちはんには、住民のみならず町の行政によく協力し、納税の必然性をさらによく理解された結果にほかなりません。このため、34年度に一六六の完納組合が増加し、このうち、納税内完納が、五五組合から七六組合に急増し心強いものを感じました。

町では、この完納のかけにある組合員相互の助け合いと労苦によつて得た成果をたたえ、また、組合の一体的な協力を感謝するため、完納組合に完納報償金を贈り、表彰したものです。

なお、この日表彰されなかった納税組合は、事情やむなしいことがあつたものと思いますが、36年度にはぜひ完納の大成をあげられますよう、今から期待いたします。

写真は表彰式

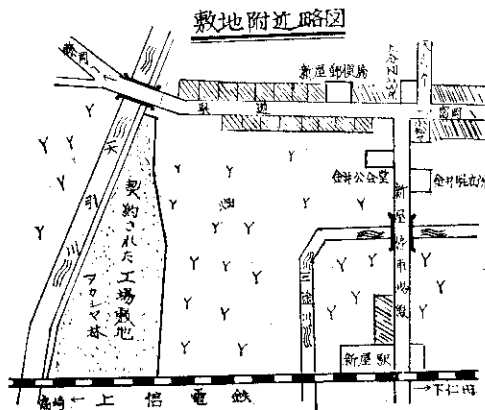
川崎からパイプ工場くる 金井へ四千坪の敷地を契約

今春から話がはじまつていた川崎市の第一パイプ工業株式会社(社長新城太治氏)の工場誘致は、急速に話し合いが進み、さる5月20日、金井地区(共有地)と約四千坪の土地を契約、ただちに、工場建築をはじめることになりました。

このパイプ工場は、近代建築に必要な鉄のパイプなどを製作するもので、この事業計画により、第一、第二次計画を合わせて鉄骨の工場六百坪、材料倉庫、変電所、事務所、従業員食堂、その他、合計約一千万坪を建築します。従業員は百人以上、月産能力は二、五五〇万円となっています。これも二、三年のうちには完成する予定で電力の供給事情によつては、電気の設置も計画しています。

契約された約四千坪の土地は、金井地区共有地である新屋敷東方約三百メートル大引川に沿つたアカシヤ林で、県道と上信線鉄道にはさまれた交通には便利なところです。

また、この工場は、金井地区住民の理解ある協力があつたもので、町では、道路改修などにも、全住民の協力を切望しています。



タバコは
 町内で買ひましょう
 町内で買ったあなたのタバコが新生なら4円40銭、パントなら3円30銭、いこいなら5円50銭がタバコ消費税として町へはいきます。

納税功労者に 大工原、田村の両氏

納税完納組合の表彰にあわせて、次の二人を納税功労者として個人表彰しました。

◇大工原 十郎さん(白倉) 納税組合結成以来一度も完納組合になれなかつたが大工原さんのあきらめな努力と説得力によつて、みごと納税内完納をなしたため。

◇田村 島次郎さん(岡峯) 長年にわたる完納組合のなかにあつて、その原動力となつたもの。

すでに五人がセキリ
 ことしは多発のおそれ!

ことしになつて天引・秋畑・小川地区に、二人の患者と三人の保キン者があつた。保健所で、ことしは伝染病がはやる危険があるといつてゐるやさきでした。

昨年は、となりの吉井町でセキリキンが大あはれして、大さわぎしたばかり。ことしは甘楽町?...とんでもありませんね。

手あらい、消どく、「カ」や「ハエ」をなくせ。|| そうさ|| みんなで協力すれば大丈夫ですよ。

伸びゆく佐久間リンゴ 共同防除施設もできて

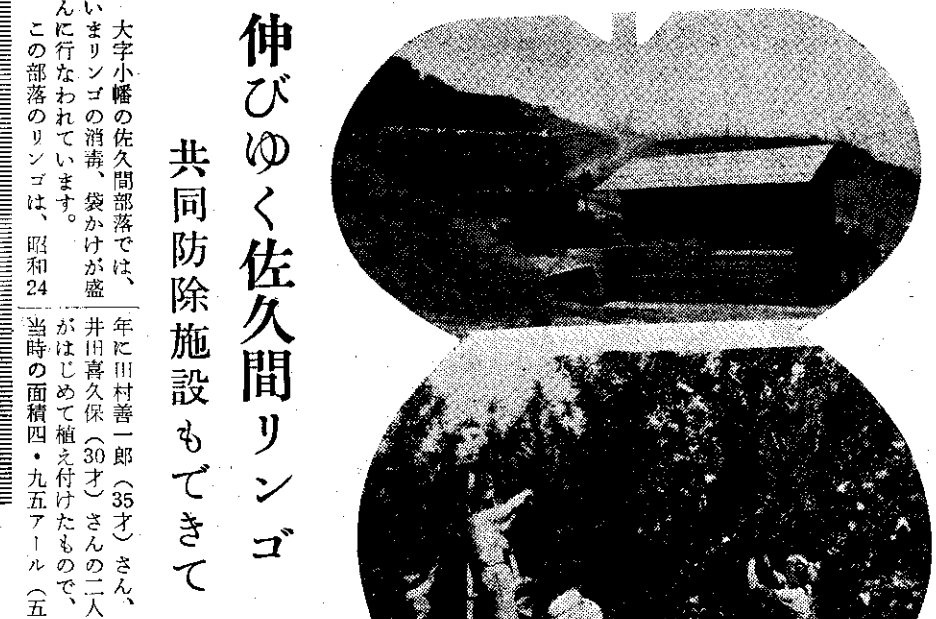
大字小幡の佐久間部落では、一年に川村善一郎(35才)さん、いまリンゴの消費、袋かけが盛んに行なわれています。

この部落のリンゴは、昭和24年、当時の面積四・九五アール(五畝)に川村善一郎(35才)さん、井田喜久保(30才)さんの二人がはじめて植付けたもので、

成果が表われてきたとのこと。リンゴ作りの大きな仕事は摘果・袋かけ・消毒作業で、消毒は、年に十二回ぐらいするそうです。そこで、同組合では、昨年の11月に新屋敷山村建設事業として国や町から補助金をもらい九四万円共同防除施設を完備し、本格的なリンゴ栽培に前進しています。

種類は、祝・紅玉・あさひ・マイルデン・スターキングがおもで、ことし収穫できるのは約一九・八三アール(二町歩)本数で三〇〇本です。

佐久間リンゴの見とおしはますます明るく、すでにピンポン玉大に成育したリンゴをながめる組合員の顔は、毎日の苦勞も



新屋キユウリ

新屋地区では、このところ酪農・養鶏・イチゴ栽培などが盛んですが、同地区金井農事研究会(会長齊藤茂)では、毎年促成キユウリに熱心です。ことしは、約一町五反歩に栽培されていますが、ことしはキユウリには最悪条件の日照りが続き、成績はよくありません。それでもなには一反歩当り一〇万円の収入を見込めるのもありそうです。新屋キユウリとして東京方面に人気を呼んでいます。

これは、収入減になやむ農家にあつて、研究と努力によつて収入増を図つてゐる良い例として、お知らせしました。

写真は新屋キユウリ

反歩)だつたのが、現在では八四・二九アール(八町五反)に増幅され、十戸で「佐久間果樹組合」(組合長 田村善一郎)を結成してますます実績をあげています。

リンゴの栽培もかなり大変で、組合員は先進地の見字や、指導者を招いての講習などによつて研究を続け、四、五年前からようやく市場出荷ができるほどに

忘れてまことにほほえましい感じ。写真は防除施設とふくらかけ盛んな